

【短報】東京都からのセダカヒメテントウの採集記録

セダカヒメテントウ *Scymnus (Pullus) vancouveris* H. Kamiya, 1965 は、高知県物部村をタイプ産地とし、福岡県英彦山で得られた標本とともに記載されたヒメテントウの珍種である。本種は記載当初 *convexus* の名が与えられたが (Kamiya, 1961), ホモニムだったため上記の種名に変更された (神谷, 1965)。

その後、新潟県の記録 (佐々治, 1982) を本州初記録として、宮城県以南からも見つかっている。

筆者は本種を以下のように確認しているので記録する。

1 ♂, 東京都八王子市高尾町高尾山日影沢 (標高 300 m), 7. VI. 2015, 筆者採集・保管。

東京都初記録。スギ植林と広葉樹林に接した林道脇の樹陰となった場所で、やや湿った崖地の落葉落枝層上部の枯れ葉表面に静止していたのを発見した。採集した個体は、Kamiya (1961) が示した本種の色彩パターンとはやや異なり、上翅は合腹部と側方の前半部分が黒いだけで赤褐色部分が上翅前縁まで拡大した個体だったが、前胸腹板突起の形状、後腿節線の状態やそれによって囲まれた部分の点刻の様子、雄交尾器の形態などが本種の特徴と合致した。このような赤色部の拡大した個体は佐々木 (2012) も図示している。近県からは、

埼玉県 (藤多, 1993), 神奈川県 (平野, 2006), 山梨県 (水野, 2010) からの記録がある。

本種の採集例は非常に散発的である。その理由としては、体長 1.6 ~ 1.7 mm と微小種であることに加え、ほかのヒメテントウ類とはやや異なった生態をしている可能性が考えられる。この点、尾崎 (2010) が直射日光の差さない林床のブナ倒木の幹掃き採集によって得ていることは注目に値する。藤多 (1993) もまた暗い樹林下で得ているとし、佐々木 (2012) も日陰の林道沿いにあるコンロンソウなどが生える湿気の多い下草のスウィーピングで得たとしている。本報告の採集例も含め、本種は樹林内の明るくない環境で地表付近から見つかるようである。

末筆ながら、種々ご教示をくださった松原豊氏 (横浜市) に心よりお礼を申し上げる。

引用文献

- 藤多文雄, 1993. 埼玉県のテントウムシ科 9 種の記録. 月刊むし, (274): 23-24.
- Kamiya, H., 1961. A revision of the tribe Scymnini from Japan and the Loochoos (Coleoptera: Coccinellidae) Part II. Genus *Scymnus* (Subgenus *Pullus*). Journal of the Faculty of Agriculture, Kyushu University, 11 (3): 303-330, pl. 39.
- 神谷寛之, 1965. 日本産 *Scymnus* 属 1 種の新名. Kontyû, 33(3): 316.
- 平野幸彦, 2006. 続・神奈川県甲虫誌 II. 神奈川虫報, (153):

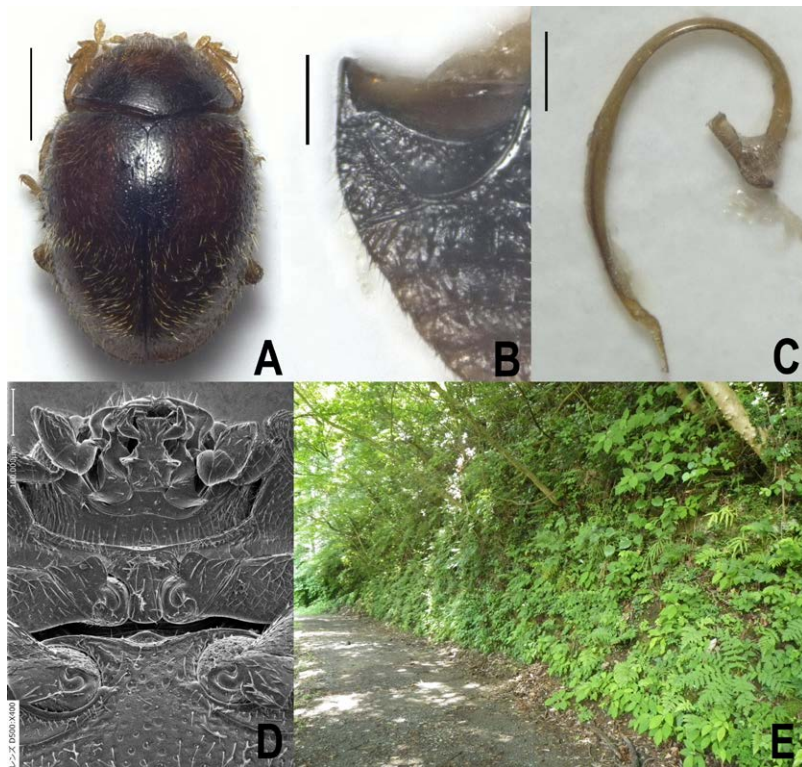


図1. セダカヒメテントウとその採集環境。A, セダカヒメテントウ♂ (高尾山産); B, 後腿節線とそれによって囲まれた部分の点刻の状態; C, 雄交尾器 (Aのスケールは0.5 mm, B, Cは0.2 mm); D, 前胸腹板突起 (SEM画像); E, 林道脇の崖地 (八王子市高尾山)。